経営探訪
Management Report

株式会社 協和工業

秋田の製造業として選ばれる企業へ 独自の生産管理システムを構築

協和工業の歴史は イノベーションの歴史 揺るぎない強みを身につける

昭和24年に前身の「協和発条製作所」を先代である須藤忠治郎氏が創業。スプリング加工を行う製造業としてスタートし、その後プレス加工や精密板金加工の設備を導入。昭和61年に現在の社名「株式会社協和工業」となった。現在の代表・須藤茂樹氏は平成２年に就任。生産管理システムを整備し、企業としての強みを作るための努力を続けている。選ばれる企業となるため、どんな取組を行っているのか。

図面を起こす作業から 製造・検査・納品まで

精密板金加工とは、3.2mm以下の薄い金属の板を加工することを指す。株式会社協和工業では、コンピューター関係の部品のほか、眼科検査装置の部品などの医療機器、介護用の浴槽に使われる部品などの介護機器の精密板金加工を行っている。須藤代表が、受注から生産までの流れを説明してくれた。

「弊社ではレーザーカットやパンチプレス、NC工作機械による加工を行っています。生産技術係では、お客様からご依頼時にいただいた図面を元に平面の展開図を作成し、製造工程の順序を決定する工程を行います。その後、生産管理係が指示書を作成し、各製造チーム（製造一係～三係）へ指示を行います。製造された製品は、品質保証課で寸法検査や外観検査を行います。品質を高いレベルで保持するようチェックを行ってから梱包・出荷となります」。

秋田は最果ての地。 それでも選ばれるために

自社の強みはどんなところにあると考えているのか。

「私たちは試作から中ロットの本製造まで一貫して受注することができます。お客様からすれば、試作と本製造を異なる場所に依頼するよりも安心だし、評価も一度で済みます。また、当たり前のことですが品質第一主義であること。柔軟な対応力を持っていること。そして、納期の対応力も兼ね備えていること。不景気など社会情勢不安の際、必ず『選択と集中』が行われると感じています。それはやむを得ないことです。首都圏などのお客様にとっては、秋田は最果ての地。距離的に不利なのは変えられませんが、その選択で選ばれる企業でなければならない」。

須藤代表は選ばれる企業になるため、平成14年に独自の生産管理システムを導入し、平成30年にはそのシステムをよりブラッシュアップ。視える化を図った。

「平成18年に図面のペーパーレスを導入し、図面の差し替えミスなども無くしました。視える化を導入したことで、今は部署ごとのタスクがどれくらいあり、進捗がどうなっているかがひと目見てわかるようにしています。それにより、格段に納期が短縮されました」。

生産管理係では指示書を作成し、製造工程に指示を行う。

❶大きなモニターには部署ごとのタスクと進捗状況が映し出されている。
❷同社が最も重視している「品質第一主義」。
三次元測定器に加え、ベテラン検査員による検査を実施。

社員を幸福にするため 環境の整備を進める

システムの導入により、見事に選ばれる企業となった一方、「働きやすく生産性の高い企業・職場表彰」も受賞している。経営理念のひとつに掲げているのは「社員を幸福にする」という言葉だ。

「社員を幸せにできなければ、取引先も幸せにはできないと思っています。当社は製造業の中では女性比率が高く、４割弱が女性です。子育てや家事で忙しい女性が働きやすい環境でなければと考え、女性が多く配置されている梱包・出荷の作業について夕方の出荷ではなく、14時に前倒しをしました」。

一方、人口減少による人材確保の難しさも感じている。

「やはり地元の人材を確保するのが難しくなってきています。より魅力的な環境整備と求人活動は課題ですね」。

独自の生産管理システムの導入により、秋田の製造業では課題とされている納期対応力という強みを持った協和工業は、今後も選ばれる企業として走り続ける。

株式会社 協和工業
代表取締役　須藤　茂樹

〒018-0145
にかほ市象潟町源蔵潟1番地16
TEL：0184-43-2211　FAX：0184-43-4564
https://kyowa-i.co.jp/

◎従業員数　80名
◎業務内容　精密板金・プレス加工
情報関連機器・金融関連機器・
産業装置・健康関連機器の板金
部品及び筐体